

日本における韓国語教育の現在

— 大学等の調査にみる現状と課題 —

小栗 章 (おぐり・あきら)

1. 韓国語教育の現状調査という方法

1997年から2006年まで、財団法人国際文化フォーラム¹⁾の事業として、筆者は日本の高等学校(1997-98)と大学等(2002-03)における韓国語教育の調査を実施し、教師間ネットワークの構築や研修等の企画運営に関与してきた。

高等学校の調査では中国語教育と比較して韓国語教育の現状と特徴を捉え、大学等の調査では英語ほかドイツ語・中国語・フランス語等と比較することによって、韓国語教育を外国語教育のなかに位置づけようと試みた。一連の調査は韓国語教育の現状を概観する基礎資料として、日韓の研究者等に広く活用されている。

調査で明らかになった現状にもとづいて事業を実施することで、現状理解を深めてきたことも事実である。例えば、2004年に東京と京都で始まった韓国語教師の研修事業を通じて、語学学校や市民講座を含む韓国語教育の現状を知る必要を痛感し、2006年度後半にこれら機関を対象とする調査に着手した。2007年1月末までに約1,100の機関(教室)を確認しており、実数はさらに多いと推定している。

本稿は上述の調査と関連事業を通じて確認した大学等における現状を概観し、日本における韓国語教育の全体像の構築に寄与しようとするものである。調査が不十分な点や理解不足の点につき、読者のご批判をいただければ幸いである。

2. 韓国語教育をめぐる状況変化

2.1. 学習者の増加

大学等における韓国語教育の実施状況が着実に拡大していることは確かであり、関係者の多くがここ数年の拡大傾向を認めている。高校教員の多くも、高校生の韓国(大韓民国)と韓国語に対するイメージが大きく変化したという。大学等と高等学校の教員からみて、学習者が変化していることは間違いないが、学習者の量的な拡大と質的な多様化に教育制度が追いついていないのが現状である。

1) 1987年6月に講談社ほか関連企業6社の出捐により設立された民間の財団法人。
http://www.tjf.or.jp/index_j.html 参照

韓国語教育の関係者による長年の地道な努力が「韓流ブーム」に先立つ若者たちの韓国語学習の増加を支え、その土台の上に 2000 年前後からの韓国映画やサッカーワールドカップ、韓国ドラマの人気の高まりがあったと、筆者は考えている。2002 年と 03 年に韓国語の学習者が拡大したと考えている大学等と高等学校の教員が多かったが、調査によってそれが裏づけられた。

2.2. 隣国とその言語の学習

韓国語教育を外国語教育の中にどう位置づけたらよいか。あるいは、高等学校の外国語科目や 2003 年度から導入された総合的な学習の時間の中で、隣国とその言語をどう教えていくべきなのか。韓国語教育をめぐる問題の基底に隣国をどう捉えるかという問題がある。

日本と韓国の心理的な距離が近づいた一方、同じく韓国語を公用語とする北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）が遠ざかっている。高等学校には、韓国語を教える社会科教員が多くいる。西日本地域に多い在日の教員は南北双方を隣国として捉え、その言語として韓国語を教えている。他の言語と違い、言語の呼称も韓国語・朝鮮語・ハングルなど多様であり、他の言語にない複雑な問題を抱えている。

最も近い外国の言語だから学ぶべきだという考え方は一見もつともだが、十分な説得力を持ち得ない。歴史的・文化的に最も近い関係にある隣国の、文法的に類似していて学びやすい言語として捉える人も多い。韓国語を学ぶ意味が関係者の間で十分に話し合われ、共有されていないことに問題がある。

3. 大学等と高等学校における外国語教育

3.1. 四年制大学

四年制大学における外国語教育の実施状況を表 1 に示した。2002 年度の実施率（実施校数/全学校数）は、英語の実施率 98.7% を別格としても、ドイツ語 84.1%、中国語 82.8%、フランス語 79.2% に対し、韓国語は 46.9% で、ドイツ語・中国語・フランス語と 30 ポイント以上の開きがある。[表 1 参照]

2000 年度の伸び率と比較すると、ドイツ語・フランス語が僅かながら減少しているのに対し、韓国語と中国語の実施率はそれぞれ 6.4 ポイント、3.6 ポイント高くなっている。一方、2002 年度の実施率をみると、中国語は国立と私立で大差ないが、ドイツ語・フランス語・韓国語の実施率は、国立のほうが私立よりも 10 ポイント以上高い。いずれの言語も、公立の実施率は相対的に低い。

日本における韓国語教育の現在（小栗章）

[表 1] 四年制大学における外国語教育の実施状況：2000-02 年度

年度 種別	2002 年				2000 年			
	私立	国立	公立	合計	私立	国立	公立	合計
全学校数	512	99	75	686	478	99	72	649
英語	509 99.4%	95 96.0%	73 97.3%	677 98.7%	472 98.7%	94 94.9%	72 100.0%	638 98.3%
ドイツ語	424 82.8%	95 96.0%	58 77.3%	577 84.1%	406 84.9%	94 94.9%	58 80.6%	558 86.0%
中国語	422 82.4%	88 88.9%	58 77.3%	568 82.8%	375 78.5%	83 83.8%	56 77.8%	514 79.2%
フランス語	403 78.7%	88 88.9%	52 69.3%	543 79.2%	380 79.5%	87 87.9%	51 70.8%	518 79.8%
韓国語	234 45.7%	58 58.6%	30 40.0%	322 46.9%	187 39.1%	46 46.5%	30 41.7%	263 40.5%
スペイン語	173 33.8%	44 44.4%	23 30.7%	240 35.0%	163 34.1%	40 40.4%	19 26.4%	222 34.2%
ロシア語	113 22.1%	54 54.5%	22 29.3%	189 27.6%	108 22.6%	54 54.5%	20 27.8%	182 28.0%
その他	266	96	25	387	224	81	20	325

注：文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」をもとにした。各国語の上段に学校数，下段に実施率を示した。韓国語の学校数ならびに2002年度に大学全体と国立大学で実施率に10ポイント以上差がある外国語の実施率を太字で示した。

3.2. 高等学校

1986年度以来、文部科学省が隔年で実施している「高等学校(等)における国際交流等の状況」に関する調査によって、高等学校における外国への修学旅行の実施状況や英語以外の外国語科目の開設状況を知ることができる。同資料をもとに作成した英語以外の外国語教育の実施状況を表2に示した。四年制大学の実施状況と違って英語が含まれていないが、周知のとおり高等学校における英語の実施率は100%近く、事実上「第1外国語」として位置づけられている。

表2が「英語以外の外国語教育」しか扱っていないこと自体、高等学校における外国語教育の現状を物語っている。しかも、英語が第1外国語、それ以外の外国語が第2外国語として位置づけられているわけでもない。英語以外の外国語教育の2005年度の実施率は、中国語10.24%、韓国語5.29%、フランス語4.59%、スペイン語とドイツ語1.94%であり、中国語以外は10%に満たない。1999年度と比べると、中国語3.43、韓国語2.89、フランス語0.82、スペイン語0.48ポイント増加している。ドイツ語は低減傾向にあり、0.05ポイント減少している。

[表 2] 高等学校における外国語教育の実施状況：1999-2005 年度

年度 種別	2005 年			1999 年		
	私立	公立	合計	私立	公立	合計
全学校数	1321	4082	5403	1316	4148	5464
中国語	141 10.67	412 10.09%	553 10.24%	121 9.19%	251 6.05%	372 6.81%
フランス語	102 7.72%	146 3.58%	248 4.59%	93 7.07%	113 2.72%	206 3.77%
韓国語	77 5.83%	209 5.12%	286 5.29%	47 3.57%	84 2.03%	131 2.40%
ドイツ語	47 3.56%	58 1.42%	105 1.94%	49 3.72%	60 1.45%	109 1.99%
スペイン語	28 2.12%	77 1.89%	105 1.94%	22 1.67%	55 1.33%	77 1.41%
ロシア語	5 0.38%	20 0.49%	25 0.46%	8 0.61%	15 0.36%	23 0.42%
その他	11	22	33	21	8	29

注：文部科学省「高等学校等における国際交流等の状況」(2000, 2006)ほかをもとにした。韓国語の実施率と私立・公立の間で実施率に2ポイント以上の差がある外国語、2005年度の実施率を太字で表示した。

上述のように四年制大学と高等学校で中国語と韓国語の実施率が増えているが、両者の位置づけは大いに異なる。表3は学習者数からみた実施状況だが、履修率(履修者数/全生徒数)は最も多い中国語でも0.61%、韓国語は0.25%に過ぎない。

[表 3] 高等学校における外国語の履修状況：1999-2005 年度

年度 種別	2005 年			1999 年		
	私立	国公立[a]	合計	私立	国公立[a]	合計
全履修者数[b]	21,715	26,641	48,356	20,807	19,390	40,197
履修率 b/c	2.03%	1.05%	1.34%	1.67%	0.65%	0.95%
全生徒数[c]	1,068,923	2,527,462	3,605,242	1,248,305	2,963,521	4,211,826
中国語	9,424 0.88%	12,737 0.50%	22,161 0.61%	8,757 0.70%	9,684 0.33%	18,441 0.44%
フランス語	5,457 0.51%	3,970 0.16%	9,427 0.26%	5,982 0.48%	3,941 0.13%	9,923 0.24%
韓国語	2,542 0.24%	6,349 0.25%	8,891 0.25%	1,611 0.13%	2,361 0.08%	3,972 0.09%
ドイツ語	2,932 0.27%	1,266 0.05%	4,198 0.12%	2,931 0.23%	1,515 0.05%	4,446 0.11%
スペイン語	953 0.09%	1,735 0.07	2,688 0.07%	942 0.08%	1,383 0.05%	2,325 0.06%
ロシア語	112	350	462	294	414	708
その他	295	234	529	290	92	382

注：文部科学省「高等学校等における国際交流等の状況」ほかをもとにした。履修者数が合計で千人未満の外国語は履修率を示していない。a. 国立を含むが、韓国語を実施している国立校はない。b 延べ人数。

韓国語教育論講座 第1巻

朝鮮語+コリア語				1	5.6%	1	0.7%	
韓国語+その他	1	1.0%				1	0.7%	
その他	19	19.0%	2	8.0%	3	16.7%	24	16.8%
不明	2	2.0%					2	1.4%
合計	100	100.0%	25	100.0%	18	100.0%	143	100.0%

注：韓国教育財団(1996)をもとに作成した。 a. 上智大学は1976年度に「韓国語」講座を開設した。受講生の問題提起を受け、教授会で講座名を検討した結果、スペイン語・ポルトガル語・ロシア語などの名称をヒントに「コリア語」とした。翌77年度から「コリア語」に改称している。

[表6] 四年制大学の言語(科目)名：2002-03年度

言語(科目)名	私立		国立		公立		四年制全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
韓国語	89	36.6%	12	20.7%	10	29.4%	111	33.1%
朝鮮語	50	20.6%	32	55.2%	11	32.4%	93	27.8%
ハングル[a]	38	15.6%	6	10.3%	4	11.8%	48	14.3%
コリア語	22	9.1%			4	11.8%	26	7.8%
韓国・朝鮮語[b]	15	6.2%	3	5.2%	1	2.9%	19	5.7%
朝鮮語(韓国語)	4	1.6%	2	3.4%			6	1.8%
韓国語・ハングル[c]	2	0.8%					2	0.6%
ハングル語	3	1.2%			1	2.9%	4	1.2%
韓国の言語と文化[d]	4	1.6%	1	1.7%	1	2.9%	6	1.8%
朝鮮・韓国語[e]	3	1.2%	1	1.7%			4	1.2%
その他[f]	2	0.8%	1	1.7%	2	5.9%	5	1.5%
併用型(学部等で異なる)[g]	11	4.5%					11	3.3%
合計	243	100.0%	58	100.0%	34	100.0%	335	100.0%

注：2002年度と2003年度で言語(科目)名が異なる場合、2003年度のものを示した。

a. ハングルと文化を含む。 b. 韓国朝鮮語 | 韓国/朝鮮語 | 韓国語(朝鮮語) | 韓国語, 朝鮮語 | 韓国語, 韓国語/朝鮮語 | 韓国・朝鮮を含む。 c. 韓国語・ハングル | ハングル・韓国語 d. 世界の言語と文化(韓国語) | 韓国事情と文化 | 外国語と文化 韓国を含む。 e. 朝鮮韓国語 | 朝鮮(韓国)語を含む。 f. 韓国(朝鮮)語(コリア語) | コリア語(韓国語) | 朝鮮言語文化特論 g. 二つ以上の言語(科目)名を併用(学部や言語センター等で名称が異なる。左側の名称が主)：ハングル+韓国語(2) | 韓国語+ハングル(2) | 朝鮮語+韓国語(2) | 韓国語+朝鮮語 | 朝鮮語+韓国・朝鮮語 | 韓国語+韓国語/朝鮮語+朝鮮語 | 朝鮮語+ハングル | 朝鮮語+ハングル語 | 韓国語+ハングル語 | 韓国語+韓国のことばと文化

高等学校の2001年度では、ハングルが35.1%と最も多い。ハングルという名称を使っている学校の86%が公立校、韓国語は68%が私立校、朝鮮語は72%が公立校、韓国朝鮮語は86%が公立校など、公私立の違いが明瞭である。1997-98年度もハングルが最も多く、42.1%を占めている。朝鮮語を使う高等学校の79%、韓国朝鮮語の76%が公立校である。公立校ではハングル50%、朝鮮語23%であるのに対し、私立校では韓国語50%、ハングル26%である。